

2025年6月13日(金)
バス・タクシー・鉄道の自動運転シンポジウム
閉会挨拶

運輸総合研究所理事長の上原でございます。皆様お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

まずは基調講演やパネルディスカッションにご登壇いただきました、伊予鉄バス株式会社の竹中様、日本交通株式会社の川鍋様、株式会社みちのりホールディングスの浅井様、東武鉄道株式会社の大東様、国土交通省の猪股様、群馬大学の小木津様、前鉄道総合技術研究所の平栗様、そしてモデレーターを務めていただきました東京工科大学の須田様に感謝を申し上げたいと思います。また、長時間にわたりご参加いただきました皆様、そして日頃より当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に深くお礼を申し上げたいと思います。

本日のシンポジウムでは、公共交通における自動運転社会の実現に向けた交通事業者の皆さんの取組みのご紹介、あるいは当研究所における研究成果、提言の報告とともに、パネルディスカッションにおきまして、自動運転社会の将来像と実現に向けた課題解決の方策などについてご議論をいただきました。

本日ご参加いただきました皆様方には、ぜひこの後アンケートへのご協力をお願い申し上げたいと思います。特に公共交通の自動運転社会を実現していくためには、システム技術の開発や、あるいはルールや制度作り、そうしたサプライサイドの取組みもさることながら、本日のパネルディスカッションでもご指摘がございました通り、社会的受容性の醸成、利用者の皆様方との問題意識の共有や、あるいは広範なご理解、こうしたものが必要不可欠でございます。ぜひ、本日のシンポジウムの率直なご感想を広く承り、これをまたサプライサイドにも、皆さんにもフィードバックをすることによって、この公共交通の自動運転社会実現に取り組んでまいりたいと考えております。

本日は最後までご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

(以上)